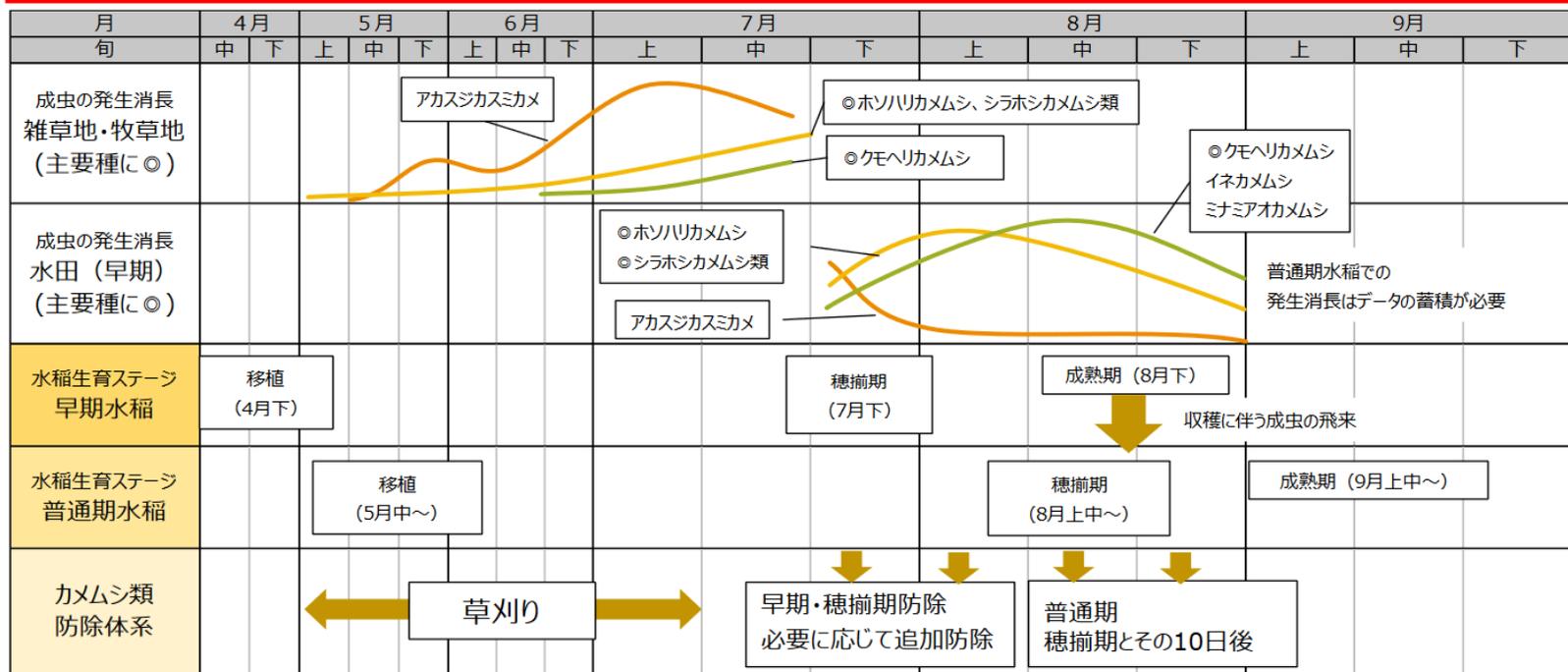


みんなでやろうカメムシ防除

カメムシ被害の発生しやすい条件

1. 夏の降水量が少ない。梅雨明けが早い。→高温少雨条件でカメムシの活動は活発となる。また、餌となる雑草の生育も旺盛となり、発生が増える。
2. 暖冬の年は越冬量が多い。→特に、暖冬の年は防除を徹底する。
3. 周辺ほ場より出穂が早い。または遅い。→被害が集中する。できるだけ作期をまわりと揃える。
4. 周辺に休耕田が多い。→カメムシの餌となるイネ科の雑草が多く、繁殖地となる。
5. 水田内にイネ科雑草が多い。→稲の穂が出る前に出穂する個体があり、早くから水田内にカメムシを呼び込むことになる。

三重県の水田におけるカメムシ類の発生活長と防除体系



おすすめ農薬

スタークル豆つぶ



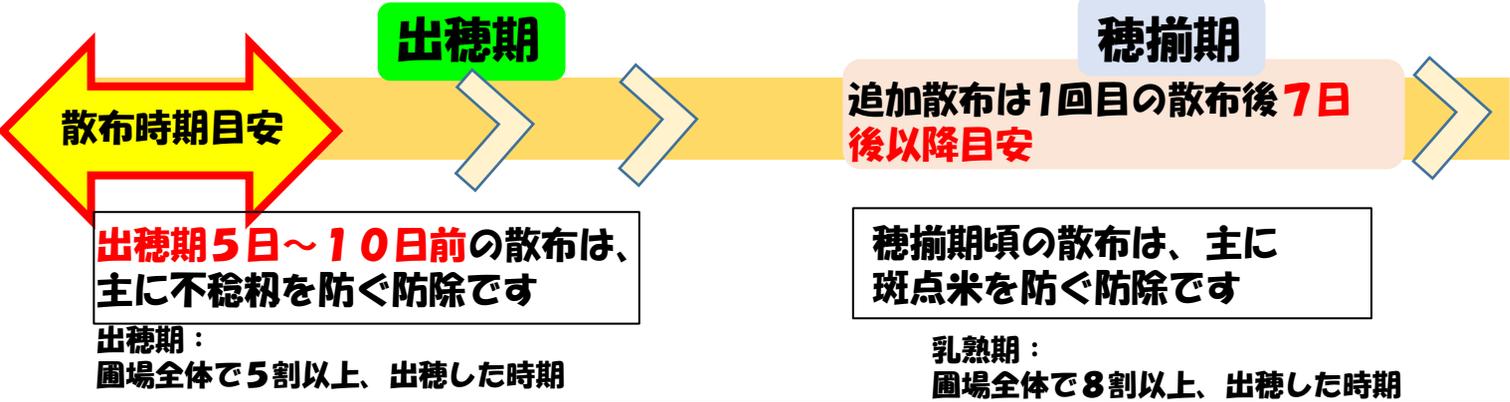
登録
 収穫7日前
 反当りの使用量
 250g
 特徴
 畦畔からラクラク散布
 できる自己拡散型省力剤
 (散布目安水深3~5cm)
 出穂期1週間前散布
 =不稔米対策
 出穂期7日後(穂揃期)散布
 =斑点米対策

キラップ粒剤



登録
 収穫14日前
 反当りの使用量
 3kg
 特徴
 早めの散布でカメムシ予防
 (散布目安水深3~5cm)
 出穂期1週間前散布
 =不稔米対策
 出穂期7日後(穂揃期)散布
 =斑点米対策

カメムシ防除スケジュール



主なカメムシ類



アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ



ミナミアオカメムシ



アカヒゲホソミドリカスミカメ
小型カメムシ



トゲシラホシカメムシ
中型カメムシ



クモヘリカメムシ



イネカメムシ
大型カメムシ

おすすめ農薬

スタークル豆つぶ



登録
収穫7日前
反当りの使用量
250g
特徴
畦畔からラクラク散布
できる自己拡散型省力剤
(散布目安水深3～5cm)
出穂期1週間前散布
＝不稔米対策
出穂期7日後(穂揃期)散布
＝斑点米対策

キラップ粒剤



登録
収穫14日前
反当りの使用量
3kg
特徴
早めの散布でカメムシ予防
(散布目安水深3～5cm)
出穂期1週間前散布
＝不稔米対策
出穂期7日後(穂揃期)散布
＝斑点米対策

防除は地域ぐるみで行うと効果的です。

- 殺虫剤による防除だけでなく、水田周辺の雑草地や畦畔の雑草管理も適切に行いましょう。
- 適切な時期に薬剤を処理するために、出穂期を知ることが大切です。圃場をよく観察し、稲の生育状況を把握するとともに、防除薬剤をまき遅れないように注意しましょう。

○農薬使用前にはラベルをよく読んでください。○ラベルの記載以外には使用しないでください。○農薬は小児の手の届く所には置かないでください。○農薬の空袋、空容器などは圃場などに放置せず、適切に処理してください。○防除日誌を記帳しましょう。